

## 八ヶ岳・横岳小同心クラック

--- ツクモグサに逢いに ---  
(2009年6月の記録)

秋田 誠

日程：2009年6月27日(土) 晴のち曇り

参加者：東郷京子(湖南岳友会)、秋田婦美、秋田誠(彷徨倶楽部)

タイム：赤岳山荘駐車場7:10 --- 赤岳鉱泉9:00~9:30 --- 小同心取付き11:30~12:30 --- 横岳14:00~14:45 --- 硫黄岳経由 --- 赤岳山荘駐車場19:00

6月の八ヶ岳のヒロイン、ツクモグサの群落が素晴らしいことを知り、梅雨の晴れ間を狙って小同心クラックを目指した。山に行きたいがどこに行ったものか?と思案するとき、関東の山屋は「迷ったときは八ヶ岳」と云う。とりあえず八ツに行けば、ルートはいくらでも選べると云う意味だ。八ヶ岳は東京、埼玉から高速道路で3時間足らずの至近にあり、四季を通じて縦走から岩登り、アイスクライミングと多彩なルートを私たちに提供している。18の夏に初めて夏沢峠から赤岳まで縦走して以来、様々なルートを経て八ツの頂稜に立ったけれど、小同心クラックは攀る機会がないままだった。大同心稜の急登と僅か3ピッチのクライミングを秤にかけると、小同心のみを目的に訪れるのは気が進まなかったのだ。八ツと白馬でしか見ることができないというツクモグサは、「花とクライミング」という素敵なプランをプレゼントしてくれた。



日曜の天気は怪しいぞ。じゃあ、我が倶楽部の得意技、ワンデイ・クライミングだ。林道歩きの時間を稼ぐため美濃戸まで車で入った。思った通りこの山行の核心部は穴ぼこだらけの林道だった。我が愛車デミッチは、都会育ちのひ弱なFF車。車高が低い上にサスも軟弱。つまり、このテの悪路はとってニガテなのだ。歩くような超低速で車を進めないと、たちまち床を擦ってしまう。しかも具合の悪いことに、ちょうど林道に射し始めた朝陽が目に入ってまぶしい。前が見えなない。右〜っつ、左〜い。助手席のナビを頼りに赤岳山荘までの慎重なドライブ。ハンドルを握る手が汗ばんでしまった。とほほ。

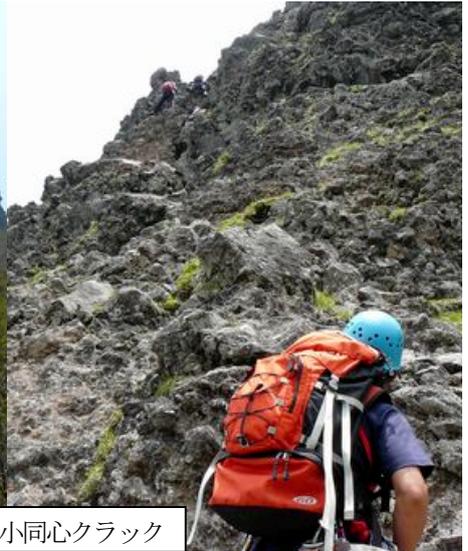
水を飲みに沢に下ったのか朝寝坊のかもしか君とぼったり遭遇。オオルリ、コルリ、カヤクグリなど小鳥のおしゃべりを楽しみながら赤岳鉱泉着。冬はクライマーで賑わうアイスキャンデーも今は無残に鉄骨を晒すのみ。小屋の入り口に掛けられた生ビール800円の看板が眩しい。本日の行動はここまで〜。大同心を眺めながら、気持ちの良いテラスでぐぐーっと一杯やりたいところである。しかし、ツクモグサを見ると云って来た手前、提案したところで即、却下だろう。無駄な抵抗は諦め急な大同心稜をひたすら登る。梅雨の中休み、降って沸いたような上天気だ。同じ目論見で先行パーティーが入っているはずだが静かで実に良い雰囲気。裏同心沢からの踏み跡を合わせ、露岩を越えると視界は開けて赤岳鉱泉の屋根が遥か足元に光っている。遅咲きの山桜が満開。テントを持ち上げて花見の宴をしたい所だ。大同心正面を攀るパーティーのコールが頭上に響く。大同心沢のトラバースでやけにハエがたかったズタ袋が転がっているなあと思ったら、可哀想に、落石で遭難したのか、カモン

カの死骸だった。東郷さんのキャーにどっきり。小同心クラック取付きでは2組のクライマーがのんびり順番待ちをしていた。

小同心クラックと名付けられているが、実際にはチムニー沿いにロープを3ピッチ伸ばし、頬に風が心地良い小同心の頭に立った。見た目より岩は硬くホールドも豊富。4月に攀った権現岳東稜バットレスと同じ岩質だ。もう主稜線はすぐ目の前。縦走する登山者に手が届きそう。横岳直下の急な岩場でロープをフィックスして、ジャスト横岳山頂に立った。どこを登って来たの〜？わーすごい、握手してえ〜、ギャラリーが大歓迎だ。短いが気分の良いクライミングだった。ツクモグサ、オヤマノエンドウ、チョウノスケソウ等々。目を凝らせばコマクサのつぼみも薄ピンク色。山はすでに花の季節を迎えていた。



大同心と山桜

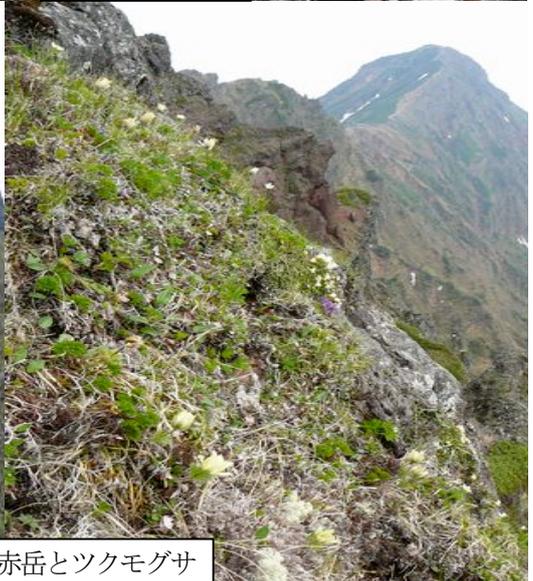


あっかんべー

小同心クラック



大同心稜を辿る



赤岳とツクモグサ



ツクモグサ



つぼみのコマクサ



チョウノスケソウ